

Rotary Club of Sanuma
2025-2026年度
VOL 62

週報
佐沼ロータリークラブ

佐沼ロータリークラブ
2025-2026テーマ
還暦を迎えて、
新たなスタートを切る
一年へ

UNITE FOR GOOD
よいことのために手をとりあおう
2025-2026年度 国際ロータリー会長のメッセージ

会長 布施 孝 尚
幹事 加藤 亮
会報 猪股 育 夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327



第2988回例会 2026. 2. 26 No.30

本日の出席率

・本日の出席率 46%

ニコニコボックス

- ・布施孝尚会長 今日は菅原慶一会員の卓話です。よろしくお祈りします。
 - ・加藤亮幹事 菅原慶一会員のスピーチに期待しております。
 - ・菅原慶一会員 本日の卓話の担当です。トイレに関する話です。トイレに感謝しましょう。
 - ・高田次雄会員 昨日の雨、野山や田畑にとっては芽ぐむの雨。人様にとっては乾し上りを止めてくれた恵みの雨。天空に感謝。
 - ・及川昭宏会員 本日は勉強させていただきます。
 - ・千葉吉男会員以下 本日の卓話に期待して。
佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 熊谷敏明会員
高橋利光会員 武川毅会員 太田陽平会員
岩淵栄市会員 杉田広仁会員 大畑好司会員
千葉正宏会員 志賀昭洋会員 佐藤利尚会員
村上正弘会員 及川幾雄会員 渡辺光太郎会員
岡本健一会員
- 以上、ありがとうございました。

会長要件 布施孝尚会長

今日は何をお話しようかと考えましたが、少し趣向を変えて、ちょっとした豆知識、雑学的をお話をさせていただきます。

冬になりますと、水が氷になり、寒さを実感したり、足元が滑りやすくなったりと、私たちの生活にもさまざまな影響が出てまいります。そこで「物質の変化」について、少しだけ考えてみたいと思います。

一般に物質は、温度が上がると固体から液体へ、さらに気体へと変化します。鉄などの金属も普段は固体ですが、加熱すると溶けて液体になり、さらに高温では気体になります。そして通常、物質は温められると膨張します。鉄道のレールに隙間が設けられているのも、熱による膨張を考慮してのことです。

ところが、水は少し特別な性質を持っています。水は液体から固体、つまり氷になるとき体積が増えます。膨張するのです。そのため氷は水に浮きます。

多くの物質は、固体になると密度が高くなり沈みますが、水は逆です。この性質があるからこそ、冬に湖や海の表面が凍っても、氷は上に浮き、下には液体の水が残ります。もし、氷が水より重く沈んでしまったら、冷えた氷が次々と水底に沈み、やがて海や湖は下から凍り続け、地球上の水はほとんど氷になってしまったかもしれません。水がこの特異な性質を持っているからこそ、地球環境は保たれ、私たちは生きていくことができるのです。

来月のロータリー月間は「水」に関わるテーマでございます。そのことを思い出し、今日はこの話をさせていただきます。

普段はロータリーの理念や活動についてお話することが多いですが、たまにはこのような身近な科学の話も、少し皆様の記憶に残れば幸いです。

幹事報告 加藤亮幹事

- ・宮古東RCより
創立60周年記念式典の案内が届く
日時 6月20日(土)
場所 浄土ヶ浜パークホテル
登録料 15,000円

- ・登米市生活部環境課より
2026年春の登米市クリーンアップ湖沼群の案
日時 3月14日(土)
8:30~10:00(受付:8:15~)
場所 長沼会場(フートピア)
長沼川会場
平筒沼会場
※佐沼クラブは、長沼会場での参加。

各委員会報告

- ・会場監督(千葉正宏会場監督)
卓上の名札をロータリーのロゴマークを入れ、両面から見えるように新しく作りました。又、3月から席替えをしますのでよろしくお願いします。

今週のスピーチ

「トイレから見える文明と未来」
菅原 慶一会員
ロータリーでは、3月は「水と衛生月間」となっております。私も水に関係する仕事ではありますが、今日の話はそんなに立派なものではありません。私はこの仕事を40年近くやっており、水の関係、そして色々なトイレを見て来ました。

テーマは、「トイレから見える文明と未来」ずばり「トイレ」です。尿に関しては1日平均4~5回(昼間)使用しております。

・文明はトイレから始まる。
人類の文明は「水」と「衛生」が支えている。古代からずっと人の生活にはなくてはならないものということで、水と水を飲んだ後の排泄物ということで、そのへんから話を進めていきます。

歴史的なテーマでいきますと、今のような下水ではないのですが、下水の施設があったのは、古代ローマに公共トイレがありました。紀元前のことです。隣り同士談笑しながら用を足したようです。

・日本は環境先進国
平安時代。貴族は「おまる」を使用。庶民は屋外や川で用をたしていたようです。江戸時代になると環境先進国ということで、世界有数の清潔都市だと言われております。循環型の都市が形成されていた。し尿が資源となっており、肥料として使用し作物を育てていた。そのため江戸の町は悪臭がなかったといわれております。

・近代化がもたらしたもの
トイレは健康と文明レベルを測る“鏡”です。
・社会を変えるトイレ
世界に目を向けますと、いろいろなところにトイレはありますが、ヨーロッパでは有料のところが多いのですが、日本では、ほとんどが無料です。有料

は有料で、そこで働いている方の仕事の確保と言った関係でいろんな意味で世界的に成り立っています。中国の公衆トイレに見られる“ニーハオトイレ”は、個室の仕切りやドアがなく、横並びで隣の人と挨拶(ニーハオ)できるほど開放的なトイレです。

・世界が驚く「日本のトイレ」
日本のトイレは世界の最先端。
日本の公衆トイレは、どこで入っても非常にきれいで、完全な個室になっています。外国の方が入ると安心して清潔な印象をもっておられます。日本らしさが出ている施設ではなかろうかという感じがしています。

日本の温水便座の普及率は、2020年度時点で80%。一方海外普及率は、米国で10%、中国で5%です。来日した外国の方が、お土産に温水便座を買うぐらい非常に人気があるようですが、世界的にはまだまだ難しいです。温水便座の設置が難しい要因に、1つには水が硬質である。硬質の水を使うとモーター関係に非常に影響が悪い。日本では当り前のことであっても海外では普及が進まないようです。タイのシャワートイレは、服がぬれるなど難点があり、日本ほど便利ではありません。

・災害とトイレ
災害にあった時は、下水の外にあるマスの一つを利用してトイレを作り、それで用をたします。地面の下を流れる下水管が壊れると何ともなりません。食べる方は何とかがまんしても、出る方はがまんできないということで、とにかく排泄を考えた上で災害にあった時に用を足す準備をしておくことが大切です。

・SDGsとトイレ
世界では、安全なトイレを使えない人が大勢います。社会問題として、感染症、健康問題、安全問題など。

・未来のトイレ
1、節水を極限まで減らす。
使用量13ℓ→5ℓ前後までが主流。水が少なくなった分つまりやすいの難点。
2、汚れを自動で防ぐ
3、電力を使わないエコ設計
4、認知症、高齢者対応(これからの課題)
5、データで健康管理

・まとめ
トイレは文明の鏡、人の尊厳を守る装置。
トイレは文明の結晶
毎日を快適に過ごす大事な施設です。皆様も是非とも「トイレに感謝」しながら使っていただければと思います。